

## 令和2年度 大学院教育プログラム配属要項 ( 理学府修士課程1年対象 )

### 1. 趣旨

大学院理学府では、「理学は、自然界に存在する真理を明らかにして、体系的に説明する普遍的法則を構築する学問である。理学府は、教育研究を通じて自然の法則及び理学の理念・方法を教授し、国際的な場で活躍できる広い視野を持った先端的な研究者、高度な能力と学識を備え社会の広い分野で活躍する高度な専門家を育成することを目的とする」という教育目的を掲げ、高度な理学専門教育を行っている。21世紀に入り、これまで以上に国際的かつ学際的になっている科学の今後を見据え、上記教育目的を実質化する一手段として、これまで各専攻が個別に行ってきた大学院教育の基盤となる教育カリキュラムを統括し、2つの並立した専攻横断型プログラムを設置した。それぞれ先端学際研究者と高度理学専門家の育成を目的として、複数の指導教員によるきめ細かなテーラーメイド教育、自ら課題を企画し問題を解決する能力の養成を目的とするリサーチマネージメント／リサーチアドミニストレーションの指導を特徴とし、専攻独自の専門教育との融合を図ろうとするものである。修士1年生は後期から全員がどちらかのプログラムに所属して、教育を受けることになる。主として将来どのような方向を目指すかによって所属プログラムを選択することになる。必要単位等も両プログラムで異なっているので、注意すること。プログラムを修了すると、学位とは別にプログラム修了書が授与される。

### 2. フロントリサーチャー育成プログラム (FR)

これまでの高度な専門教育に加え、高い学際性、優れた研究マネージメント能力、高度な情報発信能力を持った科学者を育成することを目的とする。

本プログラムの特徴は次のように大きく3点にまとめられる。

- (1) 研究者指向の学生対象の5年プログラム： 次世代の研究者には高度な能力が要求されるため、その養成には早い時期からの一貫した教育が不可欠である。そのための5年間を見据えたプログラムである(ただし、2年(修士)+3年(博士後期)とし、修士での修了も可)。本プログラムの学生は、教員の推薦により博士後期課程への入試が免除される。
- (2) 学際教員によるテーラーメイド教育： 既存の科学分野を俯瞰するとともに新領域を開拓できる人材の育成には、直接の指導教員以外に学際的な教員集団が必要である。そのため本プログラムに採用された個々の学生に最適化した少人数の専攻横断型教員チーム(アドバイザーリーコミッティー)を設置し、集団的な指導を行なう。
- (3) 研究マネージメント論の指導： 研究調査・企画・管理・評価、成果発信を一貫して行なう研究マネージメント論の指導を実施する。学生自ら研究を管理する、

「リサーチマネジメント」を中心に、「リサーチレビュー」、「リサーチプロポーザル」、「英語表現」などの授業科目を通じて、研究企画から成果発信までの優れた研究マネジメント能力を発揮する次世代の研究者を育成することをめざす。

### 3. アドバンストサイエンティスト育成プログラム (AS)

国際化や科学技術の進展による急激な社会変化に柔軟に対処でき、より社会の要請に密着した高度理学専門家の育成を目的とする。

本プログラムの特徴は次のように大きく3点にまとめられる。

- (1) 密接な社会との接点を指向する学生のためのプログラム： 修士課程で就職する学生や、博士後期課程進学後も社会とのつながりを指向する学生のための、修士課程・博士後期課程に分かれた高度理学専門家育成プログラムである。本プログラム所属生が修士課程修了後に博士後期課程へと進学することも推奨する。
- (2) 複数教員による個々の学生の指向に応じた教育： 学際的な視点を養うため、他研究室の教員を含む複数の教員からなる指導教員チームを導入し、専門のみにとらわれない、個々の学生の指向に応じた指導を行なう。
- (3) キャリアパスを構築する科目群： 柔軟に問題を解決する能力を養う「リサーチアドミニストレーション」を始め、「リサーチレビュー」、「英語表現」、「先端学際科学」、「インターンシップ」などの授業科目を通じてキャリアパスを構築し、社会の要請に密着した高度理学専門家を育成することをめざす。

### 4. 配属人員

FR：40名程度、AS：100名程度

### 5. 提出書類

令和2年度配属申請書(メールで送付)に必要な事項を記入する。

なお、ASの申請では、英語表現I・IIと英語演習I・IIのどちらを希望するかを回答すること。これは希望調査だが、変更を希望する場合は、9月中に必ず連絡すること。英語表現I・IIは、外国人講師による科学英語に関する講義、英語演習I・IIは各研究室におけるセミナー形式での英語テキスト、英語論文講読等を通じた演習である。

### 6. 申請書受理期間

7/1(水)から 7/15(水) 正午の間にプログラム推進室/理学部教務係にメールで提出すること(提出先：[frasprog@sci.kyushu-u.ac.jp](mailto:frasprog@sci.kyushu-u.ac.jp))。メールでの提出が難しい場合は、プログラム推進室(上記メールアドレス 二宮宛)に相談すること。

### 7. 審査方法

- (1) FRは、提出書類の内容評価と面接による口頭試問をおこなう。

面接は各専攻において実施されるため、日程が異なる。面接実施に関する詳細は、7月17日以降に所属専攻の人材育成プログラム委員から直接連絡する。なお、FR希望者で専攻の指定日に面接を受けられない場合は専攻の指示を仰ぐこと。

- (2) ASは、提出書類の内容について評価をおこなう。
- (3) FR・ASともに提出書類の記載内容に不備がある場合には、補足・確認のため面談の実施、個別に連絡を行うこともある。その場合の詳細は各専攻、推進室から通知する。
- (4) FRのみ面接を行うのは、教員の推薦により博士後期課程への入試が免除されるため、その代用とするためである。

## 8. 審査結果発表

8月17日(月) (予定)：審査結果をメールで連絡する。

9月上旬もしくは下旬 (詳細な日時は未定)：FR・ASのオリエンテーションを行う。

## 9. 博士後期課程進学についての注意事項

FR・ASのいずれからでも博士後期課程に進学できる。ただし、FRの学生は、指導教員から入学試験の必要がないと判断され、推薦を受けた場合には、入学試験を免除される。なお、指導教員の推薦がない場合でも入学試験を経て進学することが可能である。

## 10. その他の注意事項

応募に際しては現在の指導教員とよく相談すること。また質問・疑問はプログラム推進室/理学部教務課で対応する。また、今後、連絡事項はメールで行うため、配属申請書には、必ず連絡が取れるメールアドレスを記入すること(大学のメールアドレスを記入、携帯電話のメールアドレスは不可)。

<連絡先>

(プログラム推進室/理学部教務課；ウエスト1号館 B-306)

E-mail: [frasprog@sci.kyushu-u.ac.jp](mailto:frasprog@sci.kyushu-u.ac.jp) (二宮宛)

電話：092-802-4027 (内線 4027)

\*質問・疑問があればできるだけメールで質問を行うこと。